

自分の未来は自分で切り開く

—自分の進路、生き方は自分の力で考えよう—

栃木県経済同友会 会員
林 明 夫

Q 1 : 好きな言葉はありますか。自己紹介として好きな言葉を紹介してください

A : たくさんあります。

(1) 「小学 4 年生になったら新聞を読むこと」

* 足利市立山辺小学校 4 年生のクラス担任 岡典子先生

(2) 「練習で泣いて試合で笑え」

* 足利市立山辺中学校柔道部監督 椎名弘先生

(3) 「ブルドッグ魂—食いついたら離すな—」

* 足利市立山辺中学校 3 年生のクラス担任 岡田忠治先生

(4) 「—所懸命—一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組むこと—」

* 栃木県立足利高校マラソン大会の合い言葉

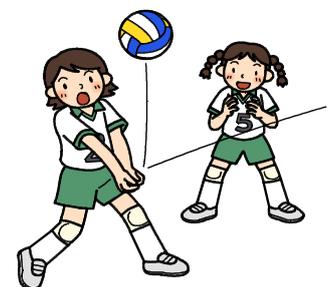
(5) 「スポーツによって得られる 3 つの宝」

① 「練習は不可能を可能にする」

② 「フェア・プレー」の精神

③ 「よき友」

* 慶應義塾大学塾長 小泉信三先生



質問

・皆様はどの言葉が好きですか。あったら教えてください。

・皆様は好きな言葉がありますか。あったら教えてください。

Q 2 : 林さんは、今どのような仕事や活動をしていますか

A : (1)開倫塾 塾長(1979年創業)

(2)学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)

(3)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

(4)マニー株式会社(手術用縫合針製造) 顧問、元社外取締役(2004～2010年)
(本社：宇都宮市。現地法人：ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)

(5)社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム 清明苑 理事(足利市)

(6)開倫ユネスコ協会 会長

(7)公益社団法人 経済同友会(東京) 幹事、サービス産業国際化推進プロジェクトチーム副委員長

(8)CRT 栃木放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15～9:25 担当、この3月で29年目に入ります。

* 1つ1つの仕事や活動には、それぞれの目的・社会的使命があります。その目的・社会的使命を達成するためにはどうしたらよいかを考えながら、仕事や活動をしています。

Q 3 : ところで、仕事とは何ですか

A : (1)すべての仕事にはお客様がいます。

(2)お客様の問題や課題を解決することで、お客様のお役に立つことが仕事だと考えます。

(3)世の中には同じような問題や課題をもったお客様がたくさんいますので、目の前のお客様のお役に立つことは、社会のお役に立つことにもなります。

(4)まとめていうと、仕事とは「お客様のお役に立つこと」、「社会のお役に立つこと」だと私は考えます。

Q 4 : 何のために仕事をするのですか

A : (1)仕事をするので、お客様や社会のお役に立つためです。

(2)仕事をするので、生活できるだけの収入を得るためでもあります。

*私は、いっしょに生活をする家族が力を合わせ、協力して生活できるだけの収入を得るよう努めることが大切だと考えます。



(3) 自己実現。仕事の意味・価値(大切さ)を見出し、よく生きるためです。

Q 5 : 学校での学習や様々な活動は、世の中に出て役に立つのですか。仕事をするとときに役に立つのですか

A : すべて役に立ちます。役に立たないことは1つありません。

(1) 小学校での学習が中学校ですべて役に立っているように、中学校での学習は高校で、高校での学習は大学や短期大学、専門学校、大学院で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。

(2) 中学校での教科以外の活動も、上の学校で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。役に立たないことは1つありません。

(3) 例えば、お客様の問題や課題を解決するために、中学校での学習や教科以外の活動はすべて役に立ちます。

(4) ですから、中学校や高校などの学校の教科書や教材、辞書は捨てないで、一生身近に置いて、時々読み返すことをお勧めします。

Q 6 : エーツ、高校入試の受験勉強も役に立つのですか

A : 高校入試には中学校で学習したことがすべて出題されます。よい点数を取り、希望する高校に合格するためには、中学校での学習をすべて「理解」した上で、しっかりと身に着けて「定着」させなければなりません。中学校で学習したことをすべて「理解」し、身に着けて「定着」させることは、高校での学習に絶大な効果を発揮します。また、社会に出てからも測り知れないほど役に立ちます。

Q 7 : これからの社会はどのような社会ですか。そこで求められる能力とはどのような能力ですか

A : (1) 知識が基盤となった社会(知識基盤社会)です。

① 知識・情報・技術を用いる能力が求められます。

② コンピュータ(ワード・エクセル)は必須です。

(2) グローバル化した社会(グローバル化社会)です。

① 多様な集団で交流する能力が求められます。

② 英語(「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能)によるコミュニケーション能力は欠かせません。

(3) 課題が山のように高く積もっている社会(課題山積社会)です。

・ 自律的に活動する能力が求められます。



Q 8 : 中学校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか

A : (1) 「学習の仕方」

- ①辞書の使い方 ②授業の受け方 ③「ノート」の取り方、活用の仕方
- ④「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の仕方
- ⑤予習の仕方 ⑥テストの受け方

(2)新聞を読み自分で考える力—「スクラップブック」を—

(3)読書による思慮深さ(しりょぶかさ)—「書き抜き読書ノート」を—

(4)図書室、図書館の利用の仕方



(5)「5S」

- ①整理(せいり・seiri)
- ②清掃(せいそう・seisou)
- ③整頓(せいとん・seiton)
- ④清潔(せいけつ・seiketsu)
- ⑤躰(しつけ・shitsuke)

(6)別の意味での「躰」

- ①美しい立居振舞い(たちいふるまい)
- ②敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)



Q 9 : 最後に一言どうぞ

A : (1)自分のよさ、家族のよさ、友達のよさ、学校のよさ、足利市のよさ、栃木県のよさ、日本のよさ、アジアのよさなど、よいところを探し出し、ことばに出して表現して認め合い、どんどん伸ばそう

—自分や他人をあまり攻めないこと、みんな仲良く—

(2)「会った人は皆友達」(京都一燈園 石川洋先生)

(3)「論語を読もう」

(4)「健康第一」—心の健康、身体の健康—

(5)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

以上

御清聴ありがとうございました。